

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	①作成日	令和 6 年 5 月 2 日	
②法人・団体名	特定非営利活動法人 Woods		
③所在地	〒112-0001 東京都文京区白山 2-19-9 2 階アトリエ 1		
④責任者氏名	金木 悠	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	同上	(役職名等)	同上

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-020	⑦助成金額	46 万円	⑧申請カテゴリー	C
⑨奨学活動名	経済的に困難な不登校児等のための特別支援的学習支援事業「ムササビルーム」				
⑩主な実施場所	埼玉県新座市				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

◆活動内容

【事業所名：ムササビルーム】

経済的困難を抱える不登校生徒への学習支援

事業開始時期：2023年4月～

対象活動期間：2023年7月1日～2024年3月31日

実施日時：毎週水曜日 午前10:00～午後14:00

実施会場：埼玉県新座市道場2-3-15及び埼玉県新座市道場1-13-53

◆成果

利用者人数延べ : 12名

1日平均利用者数 : 1名

生活保護世帯の児童や、就学相談を利用している児童生徒の利用があった。

地域のフードパントリーを行う NPO との連携により、居場所につながることができず家庭内に引きこもり状態になっている潜在的な児童がまだ多く存在することがわかってきている。

また、新座市教育委員会による適応指導教室ふれあいルーム担当者とも会談を行い、経済的困難や保護者の精神疾患など、支援することの難しい家庭があることについて情報共有した。特に保護者の疾患などの事情により民間の居場所へ自らつながることが難しく、家庭内に引きこもり状態になっている児童生徒に対しては、今後団体側からアウトリーチしていくことも検討する必要がある。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	2	4	8	1名×1日×2ヶ月
高校生等				
大学生等				
学習支援員等	158	5	790	管理者 2 名×4 日/月×9 ヶ月 学習支援員 1 名×44 日+1 名×37 日

【様式3-1】

				昼食支援ボランティア1名×4日+1名×1日
その他	8	4	32	小学5年生1名×6日+2年生1名×2日
合 計			427	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：経済的に困難な不登校児等のための特別支援的学習支援事業
「ムササビルーム」

法人・団体名：特定非営利活動法人 Woods
作成者 氏名：金木 悠

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

経済的に困難な状況下にある子ども、児童養護施設等の社会的養護下にいる不登校児童生徒のための日中の居場所学習支援を実施した。

経済的困難や発達障害などの困りごとを抱える児童が自ら安心でき、きめ細やかな支援を受けることのできる学習場所を選び取ることができるよう、居場所を求める児童生徒へ無料の個別学習支援を拡大し、それぞれが抱える事情にかかわらず、本人の希望に寄り添う教育の提供を可能にすることで、教育の格差解消に努める。

2. 実施した奨学活動の詳細

【事業所名:ムササビルーム】

経済的困難を抱える不登校生徒への居場所学習支援

事業開始時期:2023 年 4 月～

対象活動期間:2023 年 7 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

実施日時:毎週水曜日 午前 10:00～午後 14:00

実施会場:埼玉県新座市道場 2-3-15

埼玉県新座市道場 1-13-53(道場集会所)



対象:小中学生を中心とし、主に以下の状況におかれる児童生徒。

- ・経済的困窮世帯に属する生徒(非課税世帯、ひとり親世帯、生活保護受給世帯)
- ・児童養護施設入所生徒
- ・保護者の就労状況の芳しくない世帯家庭の生徒

支援内容:国語算数数学英語を中心とした学習支援及び生活支援。集団でのコミュニケーション支援。
月 1 回の昼食提供支援



参加人数：中学 1 年生 1 名×2 日＝延べ 2 名、小学 5 年生 1 名×6 日＝延べ 6 名、小学 2 年生 1 名×2 名＝延べ 2 名

周知方法やボランティア活動との連携：NPO 法人オハナプロジェクトと連携した食支援活動及び周知活動。新座市道場地域で子ども食堂、宅食など食支援活動を行う NPO 法人オハナプロジェクト(以下オハナ)とは、拠点の整備から協働して行なってきた。本拠点はオハナの産後ケア事業、親子ひろば事業とのタイムシェアで利用している。



オハナによる子ども食堂イベントへの出店の様子



学習支援員について：家庭的事情や発達障害など、複雑な環境にある児童の対応のため、認定心理士資格を所有する支援員を配置、スタッフ間で相談支援に関する学び合い、会議を開催。(1/17)

購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）：



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等活動の成果：

事業開始にあたって地域の小中学校への訪問を行ったことにより、不登校の低年齢化や中学生の不登校長期化などの拠点地域の不登校生をめぐる状況を把握することができた。それ以外にも、子ども食堂や子どもひろばなどを行う子どもの居場所のネットワーク（こどもまんなかネットワーク新座、こども応援ネットワーク埼玉など）に参加し、地域のボランティア団体と不登校生の居場所が不足している状況を共有し、団体同士連携して居場所につながることでできない児童を繋げていくことの重要性を確認することができた。また朝霞保健所より地域資源マップの協力依頼を受け、引きこもり問題に取り組む自治体や行政との連携を少しずつ進めることができています。実際の活動の中では、生活保護世帯の児童や就学相談を利用している児童生徒の利用があった。それぞれいじめや、発達障がいによる集団生活の困難、家庭環境の困難などさまざまな理由で通学に苦しさを抱えている。引きこもり状態にある児童の中には、大人との関わりだけでなく子ども同士の関わりを求める児童も多く、大人を挟んでの緩やかなコミュニケーションサポートで自信をつけていく児童も。居場所での自由時間は笑い声が絶えない。

活動拠点の周辺以外の児童と保護者からも相談を受けるため、メッセージアプリを利用して相談窓口を設置。居場所利用者のみでなく通学学習その他への相談支援を受け付けている。

今後の課題：

協働団体であるNPO法人オハナプロジェクトが行なっている子ども宅食事業は、生活保護世帯、保護者が精神疾患を抱えている世帯などが利用しており、その世帯の多くに不登校など通学や学習に困りごとを抱える児童がいるとの報告がある。

そのような家庭に対する周知活動は事業開始直後から継続して行なっているが、家庭側からのアクセス率は1割ほどと低い状況である。オハナからはその原因として、保護者の疾患により児童の引率が難しい状況にあることや、経済的困難を抱える世帯に対する民間支援を利用することで家庭の状況を周囲に知られることに抵抗を感じているケースがあるとの共有を受けている。このような困難を抱える世帯の複雑な状況を加味して、利用者へのさらなるアウトリーチ方法を検討する必要がある。

地域の子ども食堂や子どもひろばを運営するネットワーク「こどもまんなかネットワーク新座」への参加や、保健所による地域資源マップへ掲載されることにより、地域住民の目に触れる機会を増やし、家庭の中だけでなく外からも困難を抱える児童へアクセスできるきっかけ作りを引き続き行なっていく。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

学習時間の中では、長く学校での学習を受けていなかった児童本人から、前の学年からの学び直しをしたいという要望があった。学年が上がっていくことへの不安感ほどの児童も持っている中で、その不安を解消するための第三の居場所の意味を深く感じた。少人数でのきめ細やかな学習時間には、わからないときにわからないことを聞くことができる安心感、スタッフとの信頼関係の中で育む進路への気持ちづくりなど、一人ひとりの児童が自分であることへの自信を身につけることができる力があると感じている。

また昼食支援デーでは、温かな手作りの食事を皆で囲むことでスタッフや子ども同士のコミュニケーションを自然に図ることができている。

不登校を経験した児童の中には学校などの人間関係に対してコミュニケーション面での困り感をもつ場合も多くあるため、構えることなく自分のペースで人との関わりの経験を積むことができることは非常に重要であると感じている。

今後も児童が自らの意思で行う活動を支援し、将来に向けて自分自身と向き合うための準備の手助けをしていくことを念頭に、活動を継続していきたい。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）